

多文化共生というバトンを次に

～「神戸YWCA学院」を閉じるにあたって～

神戸YWCA理事長 平山 芳子



神戸 YWCA は草創期から海外に開かれたこの地で外国との豊かな関係性を築くための働きをなしてきました。北南米へ移住する女性たちへの語学教育や生活指導などから始まり、通訳養成講座や児童英語指導者養成、さらには日本語教師養成セミナーなど語学の指導者養成に実績を重ねていきました。1988 年に本科：日本語教師養成学科・日本語学科、別科：外国語科・日本語科をもって神戸 YWCA 学院専門学校が認可設立されたのは日本でも画期的な事でした。その際、日本語学科の主な対象者は、専門的な日本語教育を必要とする外国人留学生でした。彼らは、ここで優れた日本語能力を身につけて修了していきました。本科の中の日本語教師養成学科では、その留学生に対応できる専門的な知識と実践力のある質の高い日本語教師が養成されました。



阪神淡路大震災では留学生も被災しましたが、全国からの支援もあり学院の高評価と人気はなお衰えることはありませんでした。ところが、その頃から海外の日本語学習の需要が高まって、留学生や研究者に限らず初等中等教育段階で学習する者や、職業上の実務的必要など多様な学習者が現れました。他企業の参入が激しくなり、留学生獲得が難しくなったこと、出入国管理局が留学の在留資格方針を厳しくしたこともあり、数年後には神戸 YWCA で学ぶ学生が減少して専門学校の存続が危ぶまれる程になりました。

そこで、時代の変化と学習者の多様なニーズに適切に対応した日本語教育を続けるために、専門学校の看板を降ろし「神戸 YWCA 学院」として、再出発したのが 2008 年でした。

そもそも教育は教授者と学習者の相互関係の上に成立することを基本とします。とりわけ語学教育は、同じ空間で直接的に教授する方法が最良と考えられてきました。しかし、2020 年から始まったコロナ禍によってその教授法が困難となり、授業は停止・中止を余儀なくされました。また、在留外国人の学習者の多くは、経済的な理由や日常生活の

多忙さから、経費を支払ってまで一定の時間に一つの教室に集まり学ぶことが必ずしも現実的ではなくなりました。これらに対応するために行政等と連携して、生活や職業に直結した日本語教育を試み、努力を重ね、神戸 YWCA 独自の事業として認められてきました。しかし行政の事業が徐々に充実して行く中で、神戸 YWCA の役割も変わらざるを得ず、事業を成り立たせることは困難となっていきました。以上の経緯により、本年（2025 年）度をもって神戸 YWCA 学院を閉じるという決断をいたしました。

神戸 YWCA 学院を長きにわたって変わらず支えてくださった教職員、講師、修生ほか、関係者の方々に感謝の意を表しますとともに、幾多の変遷を経てここに至りましたこと、ご理解いただきたくお願いいたします。






「言語」はコミュニケーションの手段であると同時に文化的アイデンティティの基盤をなすものです。高度な情報化社会が相互の交流を豊かにした一方で、排外的な分断や差別が懸念されるようになった今日、国際化の進展には「言語」がますます重要な意味をもつことになるでしょう。

今後は、神戸 YWCA 学院の語学教育が目指したもの、その業績内容、残された課題等の検証を通して、互いの異なる言語、文化を尊重し認め合い、理解と交流を深める多文化共生の平和な世界を実現することを活動に活かし繋いでいきたいと願っております。



夏休み勉強に役立つ日本語クラス(2019年)

神戸YWCA教育事業のあゆみ

| 時期 | 年代 | 主な事業内容 |
|--------------|------|---|
| 創生期 | 1920 | 3月 神戸YWCA創立  女性のための教育事業としてスタート <ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県委託事業海外渡航者講習所開設 ・外国人婦人のための日本語クラス・GIプライダルスクール ・児童のための英語クラス・家政科(タイプライタークラス) など |
| | 1953 | 各種学校「神戸YWCA家政学院」認可 → その後「神戸YWCA学院」に名称変更 <ul style="list-style-type: none"> ・児童英語指導者養成講座 ・同時通訳基礎コース・韓、中、スペイン語講座 ・GDM(Graded Direct Method)による英語教師養成講座 ・日本語教師養成セミナー 開講  質の良い日本語教師養成の先駆けになった! ・海外帰国子女英語保持教室開始 → 2020年度まで継続  英語力保持以上に帰国子女の居場所作りが目的に |
| 各種学校神戸YWCA学院 | 1988 | 各種学校から専修学校へ「神戸YWCA学院専門学校」となる。 本科「日本語教師養成学科・日本語学科」 別科「外国語科(ICC)・日本語科」 設置  本科、別科学生425人でスタート! <p>【日本語教師養成学科】 第1期生56人、専門コース新設(1989)、本科から別科へ移設(1998)</p> <p>【日本語学科】 12カ国からの留学生でスタート。学生数121人(1991年)</p> <p>【外国語科】 「カレッジコース」 設置、新入生70人</p> <p>【日本語科】 企業等への出張レッスン、プライベートレッスン</p> |
| | 1995 | 1月 阪神・淡路大震災発生  3月に日本語学科は授業開始 |
| | 2007 | 4月 神戸YWCA学院専門学校 閉校 |
| 神戸YWCA学院 | 2008 | 「神戸YWCA学院」に名称変更  日本語事業は留学生対象から日本で生活している外国人のための教育に移行 <p>日本語コース、日本語教師養成コース、外国語コース、地域福祉コース、文化教養コース 設置</p> <p>【日本語コース】 ・日本語教師養成コースの修了生が中心になって、「子どもの日本語勉強会」立ち上げ。文化庁助成金事業「子ども日本語」クラス実施。「はっぴい・すくーる神戸Y」を立ち上げ。「学校にはいるための日本語」「夏休み勉強に役立つ日本語クラス」「はっぴー・さぽーと/すくーる」につながる</p> <p>・文化庁助成「地域における長期的日本語教育の普及」に関する協議会実施</p> <p>・厚生労働省基金訓練を経て、兵庫県立神戸高等技術専門学院委託事業「定住外国人向け日本語・就業カスギルアップコース」</p> <p>・多文化共生社会の実現に向けた「やさしい日本語」普及活動、開始。神戸市中央区赤い羽根地域作り助成事業「やさしい日本語」啓発と冊子作成</p> <p> 外国にルーツを持つ子どものための日本語教育が必要とされ始める</p> <p> 生活のための日本語教育には地域との連携が欠かせないことを学ぶ</p> <p> 「やさしい日本語」は日本人向けの講座</p> <p>【日本語教師養成コース】 ・「日本語ボランティア養成講座」  地域の外国人を支援する日本語ボランティアが増える</p> <p>【地域福祉コース】 ・厚生労働省基金訓練「ホームヘルパー2級課程」 ・「障害者ガイドヘルパー養成コース」 開講</p> <p>【外国語コース】 ・看護専門学校の英語クラス 受託開始</p> |
| | 2026 | 3月 神戸YWCA学院 閉校 |

外国にルーツをもつ子どもたちと共に

- 教育だけでなく「交流」「居場所」「誰もが活躍できる場」として -



今年度も「夏休み勉強に役立つ日本語クラス」を事故もなく、無事に終えることができました。2008年に先輩方が「プレススクール構想」として始めた当時、この新たな試みはなかなか周知されませんでした。時代に合わせて形を変えつつ、「子ども日本語トータル・サポート」に発展し、コロナ禍にオリジナル教材はオンライン上でも使用可能になりました。そして、「外国にルーツを持つ子どもたち」を対象とする日本語教育がやっと社会に認知されました。神戸YWCA学院の日本語事業は、日本語教師が外国の方々に日本語を教えるだけではありません。今後、日本での生活において課題に

なるであろうことをいち早く見つけ出し、より良い方向を示す役割も担っていました。

先日、このプログラムのミーティングの中で思い出話に花が咲きました。17年間もこのプログラムが継続できた理由として、マンパワーが挙げられました。講師、ボランティア、神戸YWCAの会員、スタッフ、そして、このクラスを修了した子どもたちです。この人たちがいたからこそ、クラス修了後の受け皿として、継続プログラム「はっぴー・すくーる」を用意できました。ここでは学習以外にも居場所として、子どもの成長を見守り続けました。先輩として成長した子どもたちは母語、

英語で後輩を支援し、活躍できる場を持つことができるようになりました。このプログラムは、神戸YWCAの根源である異文化交流・理解、居場所、誰もが活躍できる場を生み出してきました。ですから、ここまで継続できたのでしょう。プログラムで培った人間関係や考えは、今後も私たちの中に残り、各々がそれぞれの形で子どもたちの支援を続けることになるでしょう。

17年間で200人の子どもたちが巣立ちました。学院を閉じるまでに、子どもたち、支援して下さった方々と会う機会を持ちたいです。
(日本語コース・副主任 小川佐由理)



大きく変化する外国語教育の現場で



1992年入職以来2006年8月総幹事代行就任まで、私は外国語科を担当した。

私が担当した13年間は外国語教育を取り巻く状況が大きく変わった時代だったと思う。入職した頃の1週間のルーチンの仕事の一つは、国内外から届く外国人講師からの履歴書に返事を出すことだった。当時は円高が進み多くの外国人が日本に職を求めて来ていた。そこに日本の労働力不足も相まって1990年には日系3世への「定住者」在留資格ができ、外国語科でも日系人英語講師、スペイン語講師にお世話になった。

そういう社会情勢もあり外国語教育熱は高く、英語クラスは大人も子どももさほどの努力をせずとも申込者があった(93年度延べ在籍数:大人162人・子ども125人)。

そして、会館外でもカルチャーセンター、自治体職員研修などたくさんさんのクラスを開催した。

しかし、そんな時代は長続きせず少し翳りが見え始めた頃、冬学期が始まったばかりの1995年1月、阪神大震災に見舞われた。冬学期は休校にしたが、1995年度春学期も交通機関が完全回復していない中、受講生は十分戻ってこられなかった。以来、私が担当を離れる直前の2005年度、館内クラス在籍は、大人108人、子ども12人だった。その間、民間の英会話スクールチェーンが数多く生まれ、外国語教育界に熾烈な競争が生まれていたことが記憶に残る。

神戸YWCAの外国語教育は言語の習得とともに異文化理解・交流に重点を置き、数々のプログラム(料理教室、女性交流の旅、小

学生異文化体験プログラム、専門家による特別講座、韓国語スピーチコンテスト等)を実施した。今でも受講生からあのクラスが良かったと言われることがある。



異文化体験プログラム

私個人の楽しい思い出の一つは、担当在職中からYWCA退職後の2019年まで続いた、英語で青少年向け文学作品を読むクラスだ。16年間で18冊を読んだ。2004年にはカルチャーセンターに提案して宝塚で2年ほどクラスを持たせていただいた。受講生とともに読後感を語り合うのは私にとって至福の時間だった。

(元神戸YWCA学院学院長 川辺比呂子)

神戸YWCAへのおさそい

▼アクセス



冬季
休館

2025年12月29日(月)～2026年1月5日(月)

※まごの手・保育園を除く

神戸YWCA会館

●わいわいデイルーム

(神戸市地域拠点型一般介護予防事業)
毎週火曜日、10時30分～14時30分
対象：神戸市在住の65歳以上で、自分で通って来られる方。
*近くの「あんしんすこやかセンター」でお申し込みください。

●木曜カフェ

第2・4木曜日、13時30分～15時30分
レコードで懐かしい音楽を聴きながら、ほっこりしませんか。(1ドリンク100円～)
*12月と1月は日程変更あり。
お問い合わせください。

●文学講座

第3火曜日、13時30分～15時30分
更級日記を読み進めています。
ご一緒にいかがですか。

なだのはまエイト

●丹波太郎の新鮮野菜市とミニミニバザー

毎週金曜日、13時～14時

●みんなのカフェ

毎月第3日曜日、10時～12時
参加費：200円

その他

●カフェもぐもぐ

若年性認知症の人と仲間たちのつどい
毎月第1土曜日、10時30分～15時
場所：日本基督教団神戸聖愛教会
参加費：900円(食事付)
*要予約。日程変更もあるので事前にお問い合わせください。



◆イベント◆



●神戸YWCA クリスマス

日時：12月6日(土) 13時30分礼拝 / 14時30分祝会(～15時30分)
場所：神戸YWCA会館
テーマ：全ての人が大切にされるように
奨励：金 茶云 宣教師
(日本基督教団神戸教会)
*祝会ではお茶・お菓子、またクリスマスマーケットをお楽しみください。

●ピース・ブリッジ 学び 語り合い つながる会 『ひとはなぜ戦争をするのか』

日時：12月13日(土) 14時～16時
場所：喫茶「エスポワール」
(阪急六甲駅南側)
会費：1,000円(資料、ワンドリンク代込)



■学院だより

先日、30数年前に日本語学科に在籍していた元留学生から、有意義に過ごせた学院生活への感謝として匿名のご寄付をいただいた。

思いがけない連絡に驚くとともに、先輩たちがしてきた働きが、いまでも色鮮やかに生きていることに圧倒された。

(学院長 西本玲子)

■保育園だより

きょうも保育室で…
様々な個性が交差しながら、遊びが繰り返される。
子どもたちそれぞれの考えや気持ちを大切にしながら、寄り添っている。
さて、どこまで見守るか、今、声をかけるか。
その繰り返しのうちに小さな喜びを見つけ、子どもたちと分かち合っている。
成長している。子どもたちも、関わる大人たちも。

(園長 梅川玲子)

■まごの手だより

今年の夏は異常な酷暑で、利用者の中には入院や入所される方も多かった。わいわいデイルームの参加者数も減少。訪問介護のヘルパーにとっても、厳しい夏であった。

11月11日に、訪問介護では新職員の藤重桂子を迎えた。常勤ヘルパーとして勤務を開始している。

居住支援では、住宅確保に困難を感じている。昨今の物価高が高齢者や生活困窮者の生活を直撃している。食料品のみならず家賃も値上がりしている。生活保護の住宅扶助の基準は2015年に引き下げられたままであり、課題が山積である。(所長 寺内真子)

■運営委員会報告

25年度も毎月第2土曜日に開催。メンバーが出席しやすいよう、夕方に開催(ハイブリッド形式)。報告、協議、決定されたことは下記の通り。

●日本YWCA中央委員会出席(5月@名古屋)

●第2回「私のへいわ夏祭り」開催(8月)。昨年に引き続き、声の奉仕、カフェもぐもぐが参加し、マザースカレッジ企画会が初参加。外部向けの活動を会員向けに披露することで、活動内容を知るだけでなく、実際に体験するなど会員同士のつながりを深めることができた(参加者：29名)

●会館売却後の会館フロアの活用方法について、収支を含む実現可能性も考えて協議。また会員活動のリーダーに荷物の整理、引っ越しについてお願いをした。

●会館売却、自立援助ホームなど神戸YWCAとして新しい挑戦が始まる。運営委員会では、今後の会員活動の在り方(会員のつながりと活動の場など)に重点を置いて今後も協

議を重ねていく。

(書記 住田サーラ)

■評議員会・理事会報告

<評議員会>

●6月14日(土)第16回定時評議員会。出席評議員7人(欠席1人)、出席役員3人。2024年度事業報告と決算報告を承認、2025年度事業計画・予算が報告された。

●以下、理事が選任された。重任：大工原則子、寺内真子、西本玲子、野村春美、平山芳子、三浦啓子、宮田泰子
新任：梅川玲子、木村文子

<理事会>

●第1回理事会(6月14日)決議により、以下が決定した。理事長：平山芳子/常務理事：西本玲子/業務執行理事：寺内真子、梅川玲子

●以下、通常理事会
第2回(6月28日)第3回(7月31日)第4回(8月18日)第5回(9月27日)第6回(10月27日)参加：理事9人(4回のみ8人)、監事2人

●議決事項

・自立援助ホーム開設準備
・2026年4月以降の会館賃借の件
・補正予算検討、承認
(総幹事 西本玲子)

■賛助員

温かい応援を感謝します!
2025年度賛助員(6月～)

岩村義雄、小川佐由理、上 紀子、島本健二(敬称略)

■編集後記

時代の流れと共に閉じていく活動あり、また新しく芽生えていく活動あり。変化は前進への希望だと感じる。(A・S)

冬季 クリスマス募金 にご協力ください

郵便振替

01100-0-10298
公益財団法人神戸YWCA

他の寄付方法も
お選び頂けます。
詳しくはHPを
ご覧ください→



*ご寄付は税額控除の対象になります。

神戸YWCA 夏季募金報告



神戸YWCA学院終了、会館売却、新事業準備など過渡期となる神戸YWCAのために応援いただきました。大いに励まされています。感謝します!

募金総額
(2025年6月～9月末)
822,670円